

氣凛々たる御態度とに依り此の重大事件も簡単に解決したのである。

時は移る——神武天皇御東遷の際——此の靈劍が更に威力を顯現したことは國讓りに依つて一層神聖化せられた事にも由るのである。

(紀) 天皇獨與皇子手研耳尊 帥軍而進至熊野荒坂津……神吐毒氣、人物咸率由是皇軍不能復振時、彼處有人號曰熊野高倉下……時武甕雷神登謂高倉下曰予劍號曰部靈(赴屠能瀨多磨)今當置汝庫裏 宜取而獻之天孫……

此の劍は武甕槌神が前に平國の劍として出雲にて用ひ給ひしものである。神武天皇熊野御上陸後の苦戦を天神が聽召され、武甕槌神を應援の爲に派遣すべく命ぜられたが、神は「僕降らずとも平國の横刀あり、之を天降せば可なり」と云つて天降させられ高倉下神を通じて天皇に奉獻したのである。斯くて

于時天皇適寐。忽然而寤之曰。予何長眠苦此乎。尋中毒士卒。悉復醒起。の如く皇軍將卒勇氣勃々、之より峻嶺高峰の間の石の根木の根踏みさくみて行く行く途を拓きつゝ、非常の辛苦を嘗めさせられつゝ遂に橿原奠都の大業を完成せられ、天業恢弘、八紘一字の大理想を顯現し給ふたのである。此の時の横刀こそ建國の劍と申し奉つて然かあるべきか。

崇神の朝、此の横刀は大和丹波市布留なる石上神宮に奉祀せらるゝに至つた。同社の御靈代として齋き祀られて居るのである。爾來此の神宮は武器の庫とも申すべき程に多數の寶刀が藏められ、神寶として神聖化したる名刀が古來有事の際には幾度か武士の手に渡り、其の威力を發揮したのであつた。

因に當神宮に於ては毎年六月、晦神劍渡御の儀式がある。部靈の劍が高倉下を祭神とせる末社神田神社に渡御せらるゝのである。現今では之を畏多しとして神寶七枝鉞又六又鉞とも稱する神寶を其の代りとして居る。七枝鉞は朝鮮より將來した支那製の鐵刀である。此の儀式は謂ふまでもなく神武天皇熊野御上陸の故事に縁つたものである。又當神宮には上古酒殿用の巖瓮の優れたものが保存せられてある。御大典の庭上に樹てらるゝ萬歲旛の圖案——神武天皇、丹生川上に巖瓮を沈めて戰捷を占はれた故事に由る——は此の瓮がモデルとなつて居る。

(續く)

“OKABAYASI-HONDA” 彗星

昨年秋、倉敷天文臺の岡林滋樹氏と、黃道光觀測所の本田實氏とが同じ一新彗星を發見した事が、電文の誤り其の他に、長い間“OKABAYATSI (OKAVAYASI)”彗星といふ風に歐米では誤記されてゐたが、山本博士の書翰が届いたので、去る十二月以來は正しく“OKABAYASI-HONDA”彗星と呼ばれるやうになつた。